

## 平成31年・令和元年度入学式 式辞

寒の戻りも一段落し、再び春の香りが満ち溢れてきた今日の良き日、二見中学校第七十四回生、259名の新入生の皆さん、入学おめでとう。そして、保護者の皆様、お子様のご入学、誠にありがとうございます。

また、ご多忙の中、ご臨席賜りました、ご来賓の皆様、誠にありがとうございます。高いところからではございますが、心より、お礼申し上げます。

さて、先日、新しい元号「令和」が発表され、皆さんはその新時代の始まりに入学した、記念すべき入学生と言えるかも知れません。そんな節目に立った皆さんに、身につけて欲しい、3つの「力」についてお話したいと思います。

まず一つ目の力は「学力」です。とにかく一生懸命、勉強してください。豊富な知識を身につけ、問題を解く力が高まるのは素晴らしい事です。新しい発見は人間にとって、喜び以外にありません。

また、学力とはただ、テストで何点を取ったとか、そういう力だけで計れるものではありません。机に向かい続ける力、物事に筋道を立てて考える力、やらなければならないことをやり遂げる力…。これらの力は勉強し続けることで身につけ、たとえテストの点が良くなくても、将来、きっと役立ちます。

二つ目の力は「コミュニケーション力」です。私は昨年、合計三人の企業の社長と、お話しする機会がありました。そういう時、必ず「企業が求める人材はどのような人ですか？」と、聞くようにしています。すると三人とも、「コミュニケーション力」と答えられました。チームで仕事をする事、商品を得意先に売り込んだり、社内でプレゼンテーションをして企画を通す事、お客さんに好感を持ってもらう事、すなわち、人とコミュニケーションをとれるかということが、大切だということです。学校には自分と違う考えの人がたくさんいます。問題が発生しても話し合っ解決したり、違いを認め合うことで、多くの人とうまくやっていく力を高めていきましょう。

三つ目の力は「たいりよく」です。「たいりよく」には二つの漢字があります。けがや病気に負けない強い体をつくる意味の「体力」。そして忍耐の「耐」という漢字に力と書いての、「耐力」です。残念ながら、学校で起きること全てが楽しい事ばかりとは言えないでしょう。失敗すること、頑張りが認められないことや、誤解もあるでしょう。皆さんはそんなできごとに耐え、乗り越える力がありますか？今、この力が我々からどんどん失われつつあると言われていています。体の「体力」、心の「耐力」。どちらも併せ持つ、強い人になってほしいと願っています。ちなみに本校の教育目標は「失敗を恐れず、挑戦を続ける人を育てる」でもあります。

皆さんに二月の段階で質問した時、多くの人が中学校生活に不安を感じている、と答えていましたね。それでいいのです。まだ見ぬものに不安を感じるのは当たり前のことです。しかし、それは先輩方も、お父さん、お母さんも全て通ってこられたことです。ですから君たちも大丈夫です。困ったときは周囲に遠慮なく相談してください。君たちが中学校で三つの力を身につけ、成長していく姿を今から楽しみにしています。

保護者の皆様、これからの三年間、教職員一同、お子様の教育に精一杯取り組んでまいります。しかし、子ども達を取り巻く環境は決して安穏としてはいられない状況です。ゲームにスマホ、インターネット。時間をつぶせるアイテムは豊富で、私たちの頃より、はるかに誘惑が多い中で子どもたちは生きています。実際、何度啓発してもライン等によるいじめは後を絶たず、本来、授業が中心であるはずの学校が、子どものトラブル解決に奔走する時間が、膨大なものになっています。

このような状況の中、学校と家庭が協力しなければ子どもは健全に育ちません。時にはご家庭の思いとすれ違うことがあるかも知れませんが、ともにお子さんの健やかな成長を願っている気持ちは同じです。どうかご理解をいただき、互いに手を取り合って、協力し合いましょう。そして、一番の理想は、子どもたち同士で問題を解決できる力がもてるように育てていくことです。互いにそれを忘れず、子どもたちを見守っていきましょう。

地域の皆様には、日ごろから何かと学校のことを気にかけていただき、大変感謝しております。子どもたちが、「I♥FUTAMI宣言」のもと、地域を愛し、貢献できる人材になるよう、尽力してまいりますので、引き続き、暖かいご支援をお願いいたしまして、私の「式辞」といたします。

平成31年4月9日

明石市立二見中学校 校長 矢野 毅吉